

お詫びと訂正

『2022年度 日本獣医生命科学大学 獣医学部』（初版 第1刷）において解答の訂正（化学、生物）がございます。深くお詫び申し上げますとともに、下記のとおり、訂正させていただきます。

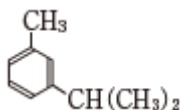
●訂正内容：令和3年度 化学（45p）（46p）

○IV（3）（45p）

〔解答〕

〔誤〕 生成物（ウ） → 〔正〕 生成物（エ）

〔解答のプロセス〕（45p 左下から3行目の図を下図に修正）



○I（1）〔D〕（46p）

〔解答〕

〔誤〕 組み合わせ → 〔正〕 結合

●訂正内容：令和3年度 生物（51p）

○V 問4（51p）

〔解答〕

〔誤〕 イ→オ→ウ→カ→ア→エ → 〔正〕 オ→イ→ウ→カ→ア→エ

[出題者が求めたポイント] (問4の部分を以下の通り修正)

問4 哺乳類の卵は透明帯に包まれており、さらにその外側を卵丘細胞層が覆っている。また透明帯と卵の間には囲卵腔が存在する。輸卵管に向かって移動しながら受精能を獲得した精子は、卵丘細胞層へと進入(オ)し、先体反応を起こして透明帯を通過する(イ)。囲卵腔に進入した精子は、卵膜表面に接し、卵細胞質に取り込まれる(ウ)。精子と卵の融合後、表層粒から放出される内容物により、透明帯が変化する(カ)。こうして行われる精子の核の進入により、卵母細胞の減数分裂が再開し(ア)、膨化した精子核と卵核が融合して受精が成立する。